

来年度予算 教員定数削減、ぐんまちゃんアニメ化などに反対

PCR検査などコロナ対策に回せ 伊藤県議が討論

伊藤祐司群馬県議は3月19日、県議会最終日の本会議で反対討論を行いました。

伊藤氏は来年度予算について、投資的経費を抑えてコロナ対策に振り分け、小中全学年での少人数学級化を実現することを率直に評価しつつ、現状を維持するだけで少人数学級が前進するのに、学校職員定数条例で小中高教職員を219人削減することは認められないと強調。また教育大綱の「人材の育成」や極端なICT推進は、産業界から教育を見る視点であり、子どもの発達に寄り添い「人格の完成」を目指す教育の本質とは異なるものだと指摘しました。県のマスコットキャラクター「ぐんまちゃん」のアニメ化などの予算3億3000万円について、検査の拡充や医療機関、生活困窮者への支援などコロナ対策に回してほしいとの県民の声を紹介し、反対を表明。

保育所の産休等代替職員設置費補助や、要支援者住宅のてすり・スロープなどの設置費助成がなくなること、高齢者介護施設の1ユニット入居定員の緩和を問題視。車いす用テニスコートの廃止問題を取りあげ、スポーツ施設のバリアフリー化を求めました。

県内宿泊費補助 急ぐべきでない

キャンペーン開始時期の一点で反対 酒井県議が質問

酒井宏明群馬県議は同日、県独自の観光業などの支援策、愛郷ぐんまプロジェクト「泊まって！応援キャンペーン」について質問しました。

同キャンペーンは、群馬県民が県内に宿泊する際、一人1泊6000円（税抜）以上の宿泊に対して一律5000円の補助を行うもの。去年6月から7月に第1弾が実施され、今回の第2弾は26日から5月31日まで予定しています。

酒井氏は、県内のコロナウイルス感染は下げ止まりでなく、リバウンドの様相で、変異株の出現、東京や近県の状況を見れば予断は許されないと指摘。現時点での第2弾開始は県民に誤ったメッセージを与えかねないとして「感染が収まってから実施すべきではないか」と質しました。山本一太知事は「感染は落ち着いている。急増すれば一時中断や延期もありうる」と回答。酒井氏は「予算を組むだけでも支援のメッセージになる。政策自体には賛成だが、連日20人以上の感染者が出ている現状では、開始時期の一点で賛成できない」としました。